

「消防用ホース」を安全にお使い頂くために

消防用ホースを使用する前に本書を必ずお読みください。本書において△警告のついた文章は、重大な人身事故を生ずる危険が存在する警告であり、△注意は重大には至らないが同様の危険が存在する注意事項です。なお、消火栓用消防ホースに関しては、別途消火栓メーカーによる取扱説明書や警告表示に従ってください。

1. 開梱上の注意

刃物の使用禁止 △警告

ダンボールのテープは刃物を使用せず手で外してください。消防用ホースを結束している紐等も刃物を使用せず、必ず手で外してください。刃物を使用した場合、誤って消防用ホースを傷付け、ホース破断による重大な人身事故が生ずる恐れがあります。

2. 使用上の注意

(1) 使用者の制限 △警告

消防職員または消防団員や同等の放水訓練を受けた方だけが使用してください。特に、放水ノズルの保持方法や金具の接続を誤ると人身事故が生ずる恐れがあります。

(2) 使用上の制限 △警告

消防用ホースを消火用の水以外では使用しないでください。特に気体での使用は、気体が圧縮されてエネルギーが蓄積された高圧ガスになるため非常に危険であり、重大な人身事故が生ずる恐れが高くなりますので厳禁とします。

C A F S等の泡放射の場合には消火薬剤を添加した水と一緒に圧縮空気が入るので、鋭利な突起物に当たるなどして消防用ホースが破断すると、圧縮空気のエネルギーによって消防用ホースや金具が大きく飛び跳ねる場合があります。(海外ではC A F Sでの消火活動中にホースが破断し、死亡事故が発生した事例があります。)消防用ホースをC A F S等の泡放射で使用するには、各々の使用条件に合わせてダブルジャケットや使用圧の高いホース等を選定するなど、輻射熱への配慮を行う必要がありますので、独自の判断で消防用ホースの銘柄(グレード)を選択せず、必ずホースメーカーへC A F S等への使用が可能かどうか、お問い合わせください。

(3) 使用前に △注意

消防用ホースを箱から出していきなり通水しないでください。新品の消防用ホースは角ができやすい傾向がありV字摩耗等が起きやすい為、水を通す前に何回か巻いたり伸ばしたりして消防用ホースの硬さを取ってからご使用ください。

(4) 性能の限界△警告

消防用ホースに表示された使用圧以内で使用してください。過大な圧力は消防用ホースの破断や金具の吹き飛び等により重大な人身事故が生ずる恐れがあります。

釘・ガラス片等の鋭利なものとの接触や過度の摩擦はホース破断につながり、重大な人身事故が生ずる恐れがありますので避けてください。また、硬くて重いものを消防用ホースの上に落とすなど、金具などの硬いもので消防用ホースを強打すると、外側のジャケットには殆んど痕跡がないのに内張り材が損傷を受け、漏水することがありますので避けてください。

(5) 敷設・展張時の注意△注意

消防用ホースを敷設・展張する場合には、送水口のバルブ元や建物の角での急角度の曲げを避け、大きな円弧を描くように敷設・展張してください。

(6) 送水時の注意 △警告

消防用ホースの敷設・展張状態が上記(5)項に記載された通りの状態であり、消防用ホースがV字状になっていないことや消防用ホースの上に障害物がないことを確認した後に、できるだけ低圧で送水し満水後に昇圧してください。また、放水中のノズル並びに吐水口の開閉操作はゆっくり行ってください。急激な開閉操作を行うと送水中の圧力の数倍の衝撃圧力が消防用ホース内に発生し、ホース破断による重大な人身事故が生ずる恐れがあります。

消防用ホースを使用して中継送水する場合には、できるだけゆっくりと昇圧・減圧を行ってください。また送水を中止する場合には、先端ノズルや吐水口、給水口、吸水口のバルブを開放にしたまま各ポンプを連携してゆっくりと減圧し、放水側のポンプから順次停止してください。中継送水している時にポンプを停止せず、先に先端ノズルや吐水側、給水側のバルブを閉めるとホース内に衝撃圧力が発生し、ホース破断による重大な人身事故が生ずる恐れがあります。なお、中継送水中は常に連成計に注意するとともに、安全のため給水元にリリース弁を接続することをお勧めします。

(7) 撤収時の注意△注意

撤収時に消防用ホース内に水が残った状態でV字状に折り曲げたまま引きずると、新品の消防用ホースでも容易に穴があいてしまいます。消防用ホース内の水を抜く際は、展張した消防用ホースを引きずらないようにして、水を抜いてください。また、消防用ホースをまっすぐにする際は、消防用ホースを長手方向にひっぱり、消防用ホースがV字状になるような方向に引きずらないようにして巻き上げてください。

(8) 安全の確保△警告

万一の破断事故に備え、放水作業時には、直接放水活動に携わっている方以外は消防用ホースから離れるようにしてください。また、一般の人が消防用ホースに近寄らないよう措置・誘導を行ってください。消防用ホースの上を車輛等が通過する場合は、必ず消防用ホースブリッジを使用してください。車輛等が直接消防用ホースの上を通過すると水の流れが急に止められて、衝撃圧力で消防用ホースが破断して重大な人身事故が生ずる恐れがあります。

3. 保守上の注意

(1) 点検の実施 △警告

使用後は必ず外観点検を行い、ジャケットの糸切れが生じた場合には、その消防用ホースを使用しないでください。また、金具装着部の針金が摩耗している場合や、金具がずれている場合にも、その消防用ホースを使用しないでください。消防用ホースの外傷や金具装着部の損傷は消防用ホースの破断や金具の吹き飛び等により重大な人身事故が生ずる恐れがあります。(消防用ホースとして破棄したものを作業用の低圧散水ホース等へ転用する場合でも、当該用途のホースに対する安全基準での点検を行い、安全を確認してから使用してください。)

消防用ホースのB10 ライフでの耐用年数は6～7年です。使用しなくても消防用ホースは経年劣化しますので、必ず当工業会基準での水圧による定期点検を行ってください。空気による加圧点検は消防用ホースの破断等が発生した場合、2.(2)項の理由により非常に危険であり、重大な人身事故が生ずる恐れがありますので禁止とします。

なお、「B10 ライフでの耐用年数」や「定期点検の工業会基準」につきましては一般社団法人日本消防ホース工業会のホームページをご参照ください。

(2) 保管方法 △注意

使用後は清水で洗浄し、洗浄後はホース内部に水を残さないように乾燥させてから風通しの良い冷暗所に保管してください。ホース乾燥機等を使用する場合には、消防用ホースの最も温度の高い部分で50℃を超えないようにしてください。70℃を超えると消防用ホースの寿命への影響だけではなく、内張り材剥離等の問題が起こる恐れがあります。

一般社団法人日本消防ホース工業会

ホームページ : <http://www.jfh.jp/>

TEL&FAX : 03-3245-1777

東京都中央区日本橋二丁目1番10号 柳屋ビル 帝国繊維(株)内